



うんが なん 運河って、何のためにあるの

いろいろな荷物にもつ はこを運ぶため

うんが はん とお のうぎょう りくち つく すいろ
運河とは、船を通したり、農業のかんがいのために、陸地をほって造った水路のことをいいます。

うんが ふる さいしょ みず はこ つく ご もの ひと はこ
運河は、古くからあり、最初は、水を運ぶために造られました。その後、物や人を運ぶための運河ができたのです。農業のための運河から、やがて、商業や交通用運河となり、物を運ぶための輸送路として、発展してきました

もつと うんが はつたつ さんぎょうかくめい じゅうよう ゆ そうろ
最も運河が発達しているのは、イギリスで、産業革命のころには、とても重要な輸送路でした。アメリカやヨーロッパ大陸の、大きな川とつながった運河は、重量物を運ぶ上で重要で、今でも活やくしています。

たいりく ぶぶん き ひら うみ むす うんが うんが
大陸のせまくなった部分を切り開き、二つの海を結んだ運河としては、パナマ運河、スエズ運河などがあります。

うんが 日本の運河

かわ じゅうよう こうつうろ えどじだい のうぎょうよう うんが かこうぶ
日本では、かつて、川は重要な交通路でした。江戸時代には、農業用の運河のほか、河口部から内陸の城下まで、物を運ぶために、運河が切り開かれました。

めいじじだい いご こうぎょうげんりょう せいひん ゆそう だいとし うみ ところ こうじょう あつ
明治時代以後は、工業原料や製品を輸送するのに、大都市の海にそった所に工場が集まり、そこにうめたて地や、ほりこみ式の港が造られました。そのため、都市運河を造ったり、湾内や川の下流部の一部をほって、運河にするなどの方法がとられています。

(監修・保岡 孝之)

